自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念については、入職時に説明している、また、目標は毎年、全職員に伝え、常に名札と一緒に携帯している	法人理念は、事業所内に掲示され、さらに職員1人1人が名札と一緒にクレドカード化して法人理念と今年度目標を記載し、携帯している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が自治会の会議に参加したり、職員、利用者が地区の行事に参加したり、こちらの行事に自治会の方々を招待をしたりなどの交流があったが、自治会の会合や事業所の大きなイベントもコロナ禍でできなくなっている	コロナウイルスの感染状況が続いている状況であり、自治会は高齢の方が多いことから会合などの回数が減少しているが、広報誌などを配布したり、年に3回ある地域の奉仕作業（草刈り）などに参加し、顔の見える関係づくりをしている	コロナ禍が落ち着いた際には、以前のように地域の方との交流の場を持ち、良好な関係づくりを構築することに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のイベントに地域の方をご招待したり、地域の行事にご利用者と参加するなど、ご利用者と触れ合う機会を作ったり、認知症についてのミニ講座を開催したりとの交流もコロナ禍でできなくっている。定期的に広報誌を発行し、活動報告を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、令和3年度は、一回のみの開催になった。令和4年度も感染症対策をし、できるだけ会議を行いたいと思う。	感染状況が落ち着いたタイミングで一度開催できたが、再度感染拡大した為その後開催できていない。オンラインでの開催も昨年同様検討したが、取り扱いが難しいという声があった為、開催に至っていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か相談するのは、市の担当者ではあるが、コロナ禍で、運営推進会議をあまり、開催できていないのもあり、事務手続き以外で、あまりこちらの具体的な取り組みなどを話す機会は減っているのが現状。	手続きを行うため、市の担当者の元に伺ったり、電話連絡での関わりはあるが、コロナ禍以前より関わりが減少している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、建物の周囲が山に囲まれて、迷って山に入ると危険な為、施錠している。また、帰宅願望があるご利用者の家族からも施錠してほしいと頼まれている。	施錠については、ご利用者・ご家族には必ず説明をしてご理解をいただいている。ご家族からは、施錠について事業所の立地を踏まえると、徘徊してしまった時のリスクを考えると安心との声をいただいている。	
7		○虐待の防止の徹底	職員は、高齢者虐待防止、身体拘束に関し		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ての研修に参加し、また、アンケートをとるなど、職員が虐待と認識しているかどうかを調査し、虐待防止委員会を定期的に開き、施設全体として虐待防止に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ終息後には、また、同法人の障害者施設や特養などと合同研修などを開き、グループワークするなどの機会を作りたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に見学に来て頂き説明を行っている。契約時には、十分に説明し、不安や疑問、意向を聞き、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置があるが、利用されている方はいない。面会は、感染者が増加している時期は、コロナ感染防止の為、禁止しているが、電話時やリモート面会時等にご家族とコミュニケーションを図り、又、毎日の日々の中で一人一人の思いを汲み取るように努めている。	意見箱はご利用者・ご家族向けに設置をしている。 コロナ感染状況が落ち着いた際には、感染対策をした上で面会制限の緩和をしていたが、再び感染拡大している為、現在面会を禁止しているが、電話でご利用者の状況をお伝えしたり、ご家族から	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは、職員会議等で仕事場への要望や意見を提案してもらう。また、年度始めや末等で個人面接を行う時に個人の意見や提案をだしてもらう機会がある。	面談はユニット管理者が個別で対応して職員1人1人の聞き取りを行っている。日頃なかなか話ができない分、この面談を大事にしてお互いの意見交換や、方針や方向性の統一に向けた取り組みとしている。	職員への聞き取りの他にユニット管理者への面談などを綿密に行うことで、更なる組織強化を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、職員によっては、年に数回、面接を行い、個人目標や達成状況を把握し、それぞれの”頑張り”を公平に評価するようにしている。また、プライベートや人間関係などが仕事にかなり影響する職員もいるので、管理者は、気になる職員には、少しの時間でも相談にのるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記の評価制度の充実を計り、職員一人一人を適正に評価するようにしている。コロナ禍で外部研修参加に関しては、今年度は、オンライン研修のみになっているが、以前の外部研修では、参加が難しかった非常勤の方も参加できるという利点がある。また、法人全体として、資格取得応援制度もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ終息後には、以前、開催していた、認知症家族の会等地域の会に積極的に参加し、ネットワークの強化に努めたいと思う。また、勉強会、研修会にも参加するとともに、相互訪問等を活発に行い、サービスの向上に努めていきたいと思う。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍以前は、入居前にご家族やご本人に見学や体験にきて頂いたが、今現在は、なるべく、見学者とご利用者が接触しないように見学していただいている。当グループホームや介護保険等に関して、疑問に思うこと、不安な事やご要望などをお聞きして、安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご自宅の様子、これまでの生活歴、不安に思う事、疑問に思う事、要望等を十分に聞き取り、入居後も日常の様子をご家族に報告し、相談したりと信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向、思いを把握し、納得していただいて、安心してサービスを受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者から何かを教わったり、励ましあったりといった関係を築き、ご利用者と一緒に生活するという意識をもつようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、リモート面会時や電話等でご家族にご本人の様子を話し、一緒にご本人について話し合い、相談し合い、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為、ご本人の友人や知人などの面会は、リモート面会で対応している。また、ご家族、知人や友人から電話が本人宛にくると、ご本人につないでいる。ハガキや手紙等もご家族に確認後、ご本人に渡し、関係が途切れないように支援に努めている。	コロナウイルスの感染状況が落ちついてきたタイミングで感染対策取りながら面会をできるように取り組んでいる。感染拡大し、面会が難しい時期には年賀状等を書いてもらい、関係性を継続できるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の人間関係を把握し、トラブルにならないように職員が仲介し、また、ご利用者一人一人に合った役割を決め、お互いに支えあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所直後は、ご家族や入所先からの相談のある方には、できるだけ相談や支援をするように努めているが、ご本人が亡くなったり、他の施設に移られるという場合が多いので、年月が経っても関係が続くというのは難しい。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との普段の関わりの中で、個人個人の思いや、ご希望を聞き、なるべくご本人のご希望に合う生活をしていただけるように支援している。	ご利用者にとって話しやすいスタッフとのやりとりの中で要望を聞き出すようにしている。主に日常生活を共にしているスタッフが一番話やすい様で、すぐに反映できる要望（食べたいおやつや内部イベント事）などは、極力応えるようにしている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談時にご本人、ご家族にお話しを聞いたり、居宅のケアマネがついている場合には、ケアマネからもそれまでのサービス利用状況等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームの一日のおおまかな日課は決まっているが、お声かけして、ご本人の気が乗らない場合は、ご本人の好きなように過ごしていただき、血圧や顔色、普段と違う行動など、小さな変化にも気づけるような支援をしている。また、何か変化があれば、記録や申し送りをするようにし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍なので、ご家族とは電話で連絡や話し合い、ご家族、ご本人の要望、意向を伺い、ケース会議で、課題、問題点を話合い、介護計画を作成している。ご家族、ご本人へ説明し、理解していただいている。	直接集まっての会議を開くことは難しいが、電話での説明のみならず、ご利用者のご家族が施設に立ち寄った際、対面で顔が見える状況で介護計画等の説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の出来事を個人のケース記録に、具体的に支援の内容と様子を記入している。日々気づいた事があれば、職員が申し送りノートに記入し、必ず、業務前に読み、サインをする事になっている。会議や打ち合わせ等で、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人、同敷地内に特養があり、ご本人の介護度が進み、グループホームでは対応が難しくなった場合などは、特養のご利用も視野にいれて検討できる。また、同敷地内の障害者施設や特養の看護師や栄養士などの支援も得られるような体制になっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍に伴い自治会の行事、法人全体の行事は中止となっている。コロナが終息すれば以前のように交流をもっていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月3回の往診があり、それ以外にも随時通院をしている。同じ先生がずっと診ているのでご利用者と先生の関係もとても良い。また身体的情報を共有している為速やかな医療を受けることができる。入院の必要が出るようなときは家族・メゾン・先生の3者で話し合いをすることもある。	緊急搬送するケースはなかったが、急遽病院受診することはあったが、医療連携が図れている為、ご利用者の身体状況などをかかりつけ医が把握している為、スムーズな受診ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内の他部署の看護師に何かあれば相談や処置をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にサマリーを制作し日ごろの注意点等の情報を共有できるよう提出している。入院中は定期的に電話で様子伺いをしている。病院で直接先生や師長と情報交換や相談をすることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は本人や家族にとって何が最善かを段階的に職員・先生・ご家族と検討している。早い段階で同じ敷地内の特養にも相談し入所の申し込みをしている。入所時に延命処置については説明を行っているが、再度確認し同意書を病院にも提出している。	長期間に渡り面会制限があったことから、ご利用者が重度化していく様子があまり理解できないご家族もいる為、事業所内での様子をや日々の変化を伝えをご家族に伝え、話し合いや電話でのやりとりで、今後の方向性や、考えられることをなるべく具体的に伝えることで、ご家族の不安を軽減している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルも作っているが、緊急対応やケガ・病気等、職員には積極的に関わってもらい、自分の経験値をあげ実践力を身につけている。都度都度処置や対応の仕方は文書と実践をみてもらい行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	直ぐ近くで土砂災害が起き実際に隣の施設の避難に協力した。実体験を踏まえた法人全体の対策会議を行い、今後は災害時の部署同士の連携をどのように取っていくかなど検討した。また今回のことがあり具体的な避難訓練も行った。	自治会や隣接する同法人施設と協力し合い、災害対策の検討を行っている。また、土砂災害の実体験があり、それを元に避難訓練の内容をブラッシュアップしている。	事業継続計画（BCP）を作成する上で、同一法人内の隣接する施設との合同訓練を開催し、計画の策定だけでなく、実践に即した内容のものを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は人生の大先輩であるご利用者に敬意をはらい言葉使いや対応に気を付けている。ご利用者によっては地域の言葉を使った方がコミュニケーションが取れる場合もある為、その人にあった対応をしている。また、定期的に赤ちゃん言葉を使っていないか等のチェックシートを行っている。	ご利用者に対しての接遇マナーについて、チェックシートを活用し全職員が言葉遣いを気を付けるような取り組みがされている。ご利用者との距離が違い分慣れ合いも生まれてきてしまったが、シートを活用してから改善してきている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が選択できる場面を増やし、自己決定できるように努めている。朝の職員とご利用者で行うミーティングで、何をしたいか、どこに出かけたいか等意見を出していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の体操や散歩はご本人の意思で参加を決めている。日中のレク等は2～3パターン用意しご利用者のやりたいものをしていただく。また、ご自分で選択できない方には職員がその方にあったものを提供している。職員の都合で、やりたくないことを無理に一緒に参加させることのないように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際、ご自分で選べない方はいくつかお見せして職員と選んでいる。毛染めや、化粧等は希望があれば職員が行っている。ネイルや化粧はご利用者の気分が上り大変喜ばれている。髪もただ剃るだけでなくお洒落で整えたい方もいるので対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はパン・ご飯・お粥から選んでいただき、コーヒーやお茶も希望や好みに応じている。地域で採れたお米や畑で収穫した野菜が食卓にのぼり喜ばれている。おやつ作りはできるだけ参加できるように役割分担をしている。食器洗いは一緒に行うが、落ち着きのないご利用者は特に手伝うことで落ち着きを取り戻しトラブルが緩和されることもある。	事業所の立地や特色を十分に活かし、一番力を注いでいる。 畑で収穫した野菜などを食材として使用し、育てる・作る・食べる楽しみを感じてもらうことに注力している。また、与えられるだけでなく、ご利用者にもできることはやっていただき、生活の中での役割を持ち、生きる楽しみを実感してもらうことを意識している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量は記録表でチェックし少ない方には工夫し提供している。認知症状で白いご飯が認識できない方が多く、ふりかけをかけて色をつけている。夏場の水分を多く摂っていただくために水かんてんを作って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きやマウスウォッシュを使い、口腔ケアを行っている。最初はご自分で行い不十分なところを職員が手伝っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排せつ状況の変化に速やかに対応し個々に合わせた支援を行えている。職員の都合ではなく、ご利用者にとって一番良い状態でいられるよう、職員は話し合いを重ね取り組んでいる。	以前よりリハビリパンツ、パット等を外す事ができるご利用者は布の下着のみ着用していただく取り組みをしている。 リハビリパンツに変えた事でご利用者の精神面の落ち込みなどがあったことから、ご利用者を中心に考えたケアを継続をしている。新人職員にも「ご利用者の事を一番に」と伝え、理解されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトや乳酸菌飲料を提供している。悪天候以外は毎日1時間の体操と散歩を続け体を動かしている。便秘が続くと不穏になったり体調が悪くなるため、排便チェック表を職員は必ずチェックしてから業務に入る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	家庭に近づけるため、午後からの入浴にしている。入浴時間は本人の希望を聞き、1人ずつゆっくり入っていただけるよう時間制限はしていない。冬は乾燥してしまうので入浴剤や湯あがりにボディークリームで保湿している。	自宅での生活リズムに近づけるような配慮がされている。リラックスした雰囲気の中でコミュニケーションを図ることで普段見えない顔を見れる為、入浴の時間を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息できるようにしているが、日中寝すぎて昼夜逆転しないように様子で声掛けをしている。よく眠れるように、なるべく1日1回は外に出て日光を浴びていただくようにしている。眠れない時はホットミルク等をお出しして話を聞きリラックスできるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報がわかるように薬情書をファイルしている。薬が変更になるときは注意事項を職員に周知し、変化がないか様子に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	どんなことができるかを一人一人見いだし役割分担している。企画やお祝い事等の時にはノンアルコールビールを提供し喜ばれている。ウッドデッキでのいちご狩りは人気の企画で、その他にも焼き芋等たくさんの企画を用意し気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが人の少ないところを探しドライブに出かけている。以前住んでいた家にご本人と、仲の良いご利用者を乗せて訪問し、ご家族やご近所の方たちと楽しい時間を過ごすこともできた。毎日の散歩では敷地内のヤギを見るのが日課になっている。	コロナウイルスが蔓延した当初と比較すると、感染症への知識が深まると同時に感染対策も整ってきた為、場所を選んで外出ができるよう計画をしている。また、立地を活かし、法人敷地内の自然豊かな所への散歩へ出掛けることを日課とし、ご利用者にとってリフレッシュできるような工夫、取り組みをして	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの為回数は少ないが、買い物ドライブを企画し、一人ずつにお金を渡し、好きなものを選んでレジで会計までしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはできている。電話も希望があればかけている。ライン面会も行えるご利用者は頻繁に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は毎月ご利用者の制作した貼り絵等を飾り、廊下は企画ごとの写真を貼り見て楽しめるようにしている。館内に嫌な臭いがしないように汚物は新聞で包み消臭剤を置いている。空調や加湿はこまめに調節している。いたるところに季節の花が飾ってある。	目に入る部分だけではなく、臭いにも気配りをしている。汚物等を新聞紙に包むことで消臭効果もあり、また、新聞紙を包みやすくするための工夫としての一手間をご利用者と一緒に行っており、空間づくりに関してもご利用者と共に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随時ご利用者同士の関係に目を配り、それぞれがストレス無く過ごせるように、席替えをしたりトラブルにならないように職員は見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族にはなるべく使い慣れたものを持ってきていただくように伝えている。コタツなどは敷物に躓かないように、イスやタンスは危険のないようにご利用者の動線に合わせ配置している。	使い慣れたもの（椅子など）を自由に持ち込めるが、事故リスク等の検討もしっかり行い、ご利用者の身体状況に合わせた自立を促す支援や環境を整備するようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活室ではそれぞれの動線や歩行状態に合わせテーブルやイスを配置している。夜間一人でトイレに行かれる杖歩行の方には、廊下にイスを置くなどしてつかまっていただき職員は見守っている。		